名古屋城調査研究センター　年報２

令和２年度

２０２１

名古屋城調査研究センター

目　次

Ⅰ　調査研究事業 …… 1
1. 発掘・試掘調査 …… 2
（1）本丸内堀発掘調査　（2）御深井丸等発掘調査　（3）二之丸庭園第８次発掘調査
（4）二之丸地区試掘調査　（5）本丸搦手馬出周辺石垣修復事業に係る発掘調査
（6）西之丸き損地点の発掘調査・修復
2. 石垣カルテの作成 …… 15
3. 工事立ち合い …… 16
（1）二之丸庭園修復整備工事に伴う立ち合い
（2）余芳仮設作業小屋の設置に伴う立ち合い
（3）西之丸展示収蔵施設外構工事に伴う立ち合い
（4）東門便所改修工事に伴う立ち合い
4. 文献調査 …… 19
5. デジタル化事業 …… 21
（1）名古屋城史跡等管理システム　（2）名古屋城関係資料データベース

Ⅱ　資料管理 …… 22
1. 所蔵資料・受託資料の概要 …… 22
（1）所蔵資料　（2）受贈資料　（3）購入資料　（4）受贈・購入図書
2. 資料の修理 …… 23
3. 資料の利用 …… 24
（1）資料貸出　（2）写真貸出　（3）熟覧

Ⅲ　教育普及・展示事業 …… 25
1. 刊行物 …… 25
（1）名古屋城調査研究センター研究紀要　第２号　（2）名古屋城調査研究センターだより　第２号
（3）名古屋城二之丸地区試掘調査報告書（第１次・第２次調査）〔名古屋城調査報告書２・埋蔵文化財調査報告書２〕
（4）名古屋城調査研究センター年報　令和元年度
2. レファレンス …… 25
3. 現地説明会 …… 26
4. 講師派遣 …… 27
5. 展示事業 …… 28

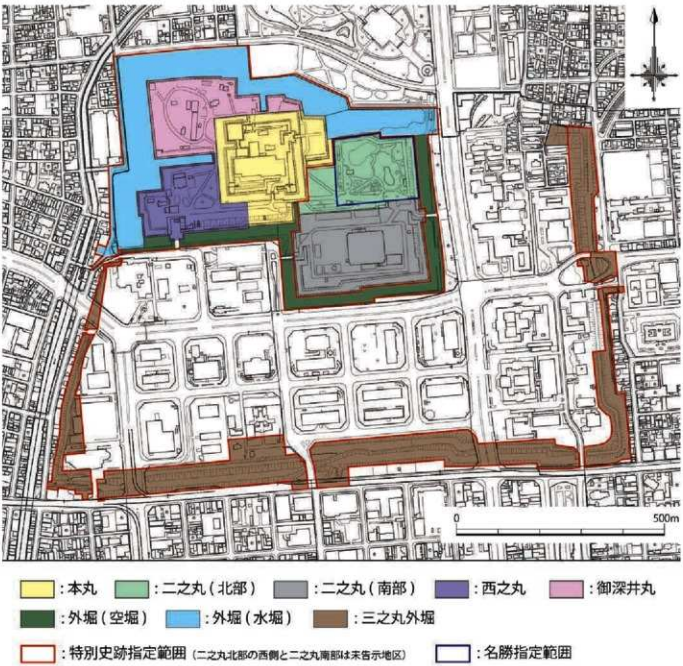
Ⅳ　組織と職員 …… 29

Ⅴ　参考資料 …… 29
1. 名古屋城の活動 …… 29
（1）催事等　（2）特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議
2. 入場者数の推移 …… 30

Ⅰ　調査研究事業

名古屋城調査研究センターは、考古学・歴史学・美術史などの分野を横断した総合的な研究を推進し、特別史跡名古屋城跡の保存・活用を進めるとともに、その調査研究成果を広く情報発信していくことを目的に令和元年（2019）４月に設立された。

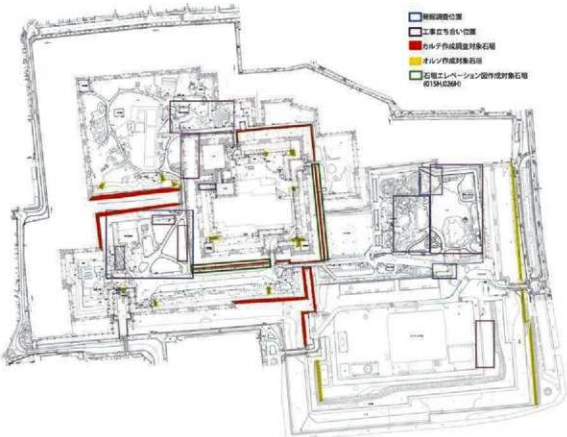
令和２年度は名古屋城総合事務所全体で取り組んでいる木造天守閣復元事業に対して文化庁から答申があり、それに対して調査研究の成果を提示する年となった。また令和２年３月２日に発生した名古屋城展示収蔵施設（仮称）外構工事地下遺構き損事故を受け、二度と同様の事故を起こさないよう、調査研究センターとして今一度文化財が国民の財産であることを自覚し、文化財の適切な保存・活用を調査研究の立場から貢献していくことを改めて誓う。



名古屋城の地区区分

1．発掘・試掘調査等

調査位置図



（1）本丸内掘発掘調査

調査期間　令和２年（2020）11 月 10 日～令和３年（2021）３月 25 日
調査地区　本丸内堀、大天守台西側
調査面積　90㎡
調査目的　堀底の状況確認
調査担当　木村有作（報告者）、大西健吾、西本茉由
調査概要

本丸内堀内において、堀底部の堆積状況及び地下遺構の残存状況、また石垣根石周辺の現況を調査し、その安定性を確認する調査を行ってきた。本調査はその一環として、令和元年度に実施した地中レーダー探査において強い反応を示した部分について、地下遺構や攪乱の状況を確認するために実施した。結果として、レーダー探査の結果から設定したトレンチが、非常に的確で効果的な発掘調査となった。

堀底は、第２次大戦の戦災層を含め、近世埋土上面まで約 70cm の近代以降の堆積がみられる。レーダー探査の結果は、現天守工事時の攪乱と、地表から約 80 ～ 90cm の深さ付近で検出された「礫群」に反応したものと思われる。攪乱については、各トレンチ調査の結果、石垣に影響を及ぼすものではないことが判った。

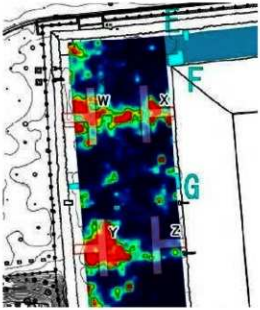
礫群は近世埋土と思われる土層の下位あたりに集中しており、5 ～ 20cm 大の円礫と多くの瓦片が混在した状態であった。礫群を含む近世埋土は、おそらく江戸時代中期の宝暦修理（1752 ～ 1755）以降の堆積と推定され、礫群は宝暦修理時に敷かれた可能性が高い。礫群の検出を進めていく過程で、まず北西の W トレンチで、大型石材が並んでいる状態を発見した。その後、4 つのトレンチすべてで大型石材の並びが確認され、北側の W･X トレンチで見つかった北側に面を持つ石列を「北石列」、Y・Z トレンチの南側に面を持つ石列を「南石列」とした。19 個を数えた石列石材は、岩種がほぼ花崗閃緑岩に限定され、築城期盛土または地山と推定される砂質土を掘り込んで据えられていることが判った。

西側（御深井丸側）石垣との関係は、北側 W トレンチでは石垣から約２m 離れたところで、南側 Y トレンチでは約 1 m で石列が終わっており、石垣との間は礫で充填されていた。

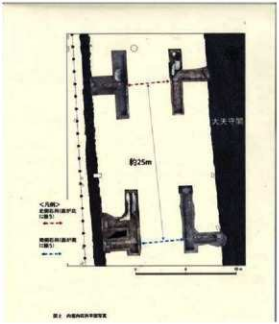
東側（大天守台側）石垣との関係は、北側 X トレンチでは、石垣前面が宝暦修理時の際に掘り返され、石列が石垣に明確にすり付く状況を確認できなかった。一方、南側 Z トレンチでは、天守台石垣から約 1.5 m のところで終わり、石垣面まで達していないことが判った。

調査の現状からみて、南北の石列は築城期 (慶長期) に築かれた「石垣」の下端付近が残された遺構である可能性が高いと思われる。従来から問題提起されてきた、築城期の縄張の計画変更についての論議に考古学的見地からの一石を投じる調査となった。

調査位置図



レーダー成果とトレンチ設定



遺構平面写真と石列の位置関係

調査写真

「北石列」／手前 W、奥 X トレンチ

「南石列」／手前 Y、奥 Z トレンチ

（2）御深井丸等発掘調査

調査期間　令和２年（2020）12 月 16 日～令和３年（2021）３月 25 日
調査地区　御深井丸・本丸地区
調査面積　118．1㎡
調査目的　御深井丸及び小天守西側における地下遺構確認のための調査
調査担当　二橋慶太郎、西本茉由
調査概要

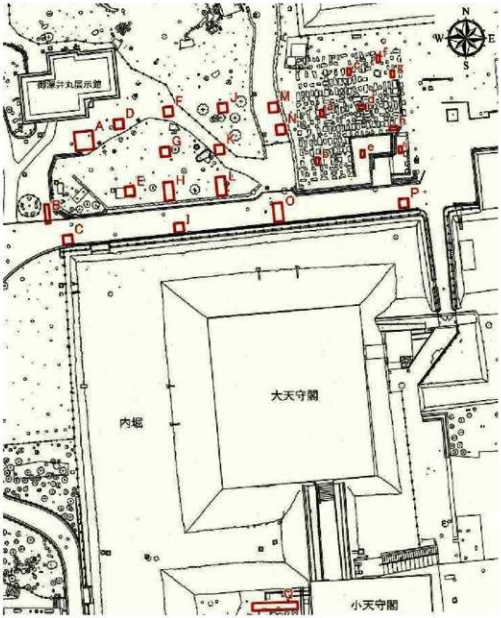
御深井丸及び小天守西側における地下遺構確認のため、御深井丸に 25 か所（A ～ P 区、a ～ i 区）、小天守西側に 1 か所（Q 区）の調査区を設定し、調査を行った。調査に当たっては、特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議石垣部会の指導・助言を受けた。

調査の結果、A ～ P、b、c、g 区では表土から近世層上面までの堆積状況を把握、小天守西側では、濃尾地震（明治 24・1891 年）後の埋戻し土の堆積状況を確認した。

遺構としては、B 区で砂岩質間知石 4 石からなる溝状遺構が検出された。『金城温古録』には、B 区付近には「水道」があったことが記されており、溝状遺構は「水道」の一部と考えられる。その他に明確な遺構は検出されず、調査地区における遺構の密度は低いことが確認された。

出土遺物は、大半が近世～近代の瓦であり、H、J、M、c、g 区では瓦溜まりとして多量の瓦が検出された。その他、G 区において太平洋戦争中の名古屋空襲時（昭和 20・1945 年）に天守等から焼け落ちたと考えられる銅板、鉄釘等の金属製品が多量に検出された。一方で、土器、陶磁器等の生活に伴う遺物は少数の検出に留まった。

調査位置図



調査写真

B 区溝状遺構 (西から)

有識者による指導の様子

（3）二之丸庭園第８次発掘調査

調査期間　令和３年（2021）１月13日～３月24日
調査地区　二之丸（北）地区　二之丸庭園（北東部・東部・西部・東庭園）
調査面積　161㎡
調査目的　二之丸庭園整備に伴う調査
調査担当　花木ゆき乃、高橋圭也、佐藤公保、岡本敦子
調査概要

調査は二之丸庭園における文政期（1818～1830）の庭園内部と外縁部の境界である塀跡確認および二之丸庭園東部の近世遺構の残存状況の確認を目的に行った。

基本的な層序は、表土―昭和の造成時の盛土層―近代の包含層―近世の包含層である。

調査区⑦では暗渠を検出した。この暗渠は、現在露出展示されている暗渠と一直線上にあり、一連のものと思われる。

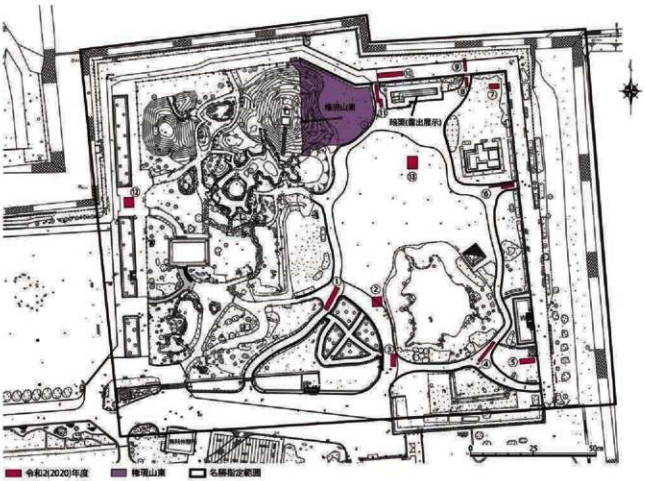
調査区⑩では近世の礎石（または束石）を確認した。絵図から推測すると薬医門北側の建物の一部である可能性が高い。

調査区⑪では塀の礎石と塀に伴う雨落ち溝や玉石集石遺構を検出した。塀跡は第２次調査の権現山東調査区でも確認されており、今回検出したのはその延長である。調査区南部では石列と土坑を検出した。土坑は権現山東調査区で検出された石組遺構北側の巨石列の抜き取り痕、石列は石組遺構南側の石列の延長と考えられる。

調査区⑫では近世の礎石（または束石）を確認した。二之丸御殿に関連する建物の一部であると思われる。

二之丸庭園東部の近世遺構の残存状況確認を目的とした調査区⑬は、近代以降の土管や樹が調査区のほとんどを占め、庭園遺構は確認できなかった。一部深掘りした箇所では、ロクロ土師器が出土した。かく乱土からの出土ではあるが、延段の破片や施釉瓦、敷瓦等の庭園に関連する遺物も出土した。施釉瓦や敷瓦は寛永期（1624～44）の庭園に関する遺物の可能性がある。その他の調査区では、陸軍期の兵舎関連遺構や昭和の造成時の改変により、近世の庭園遺構を明確に捉えることができなかった。

調査位置図



①20㎡(2×10)　②16㎡(4×4)　③10㎡(2×5)　④10㎡(1×10)　⑤12㎡(2×6)　⑥10㎡(0.5×10、1×5)　⑦8㎡(2×4)　⑧4㎡(1×4)　⑨5㎡(1×5)　⑩20㎡(2×10)
⑪10㎡(1×7、1×3)　⑫16㎡(4×4)　⑬20㎡(4×5)　※⑥と⑦は埋設管の影響で調査区形状を一部変更した

調査写真

調査区⑪　北より

調査区⑪　玉石　北より

（4）二之丸地区試掘調査

調査期間　令和３年（2021）３月８日～３月19日
調査地区　二之丸地区
調査面積　16㎡（2m × 4mのトレンチを２カ所設定）
調査目的　二之丸地区の保存活用のため、地下遺構の残存状況を把握し、本格的な発掘調査に向けての基本的な資料を得るための調査
調査担当　佐藤公保・岡本敦子
調査概要

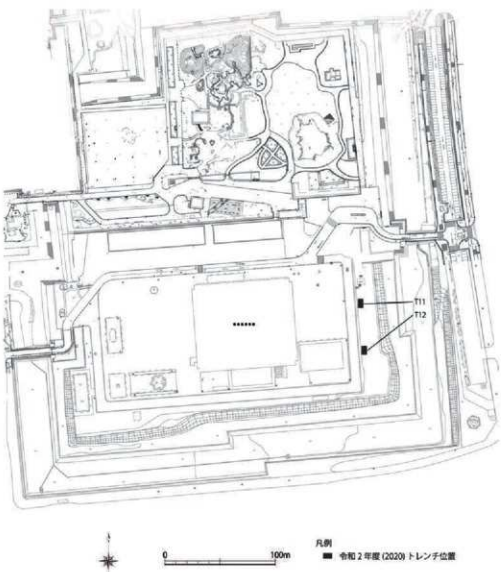
令和２年度の調査は愛知県知育館の東に２カ所のトレンチを設定し、名古屋城二之丸の南にあった向屋敷および馬場関連の遺構の状況を確認するために調査を実施した。トレンチについては昨年度までの試掘調査のトレンチ番号を引き継いで北のトレンチを「T-13」、南のトレンチを「T-14」とした。

T-13ではトレンチの北端で向屋敷の北境に関連すると思われる扁平な自然礫を、標高13.0mで確認した。これは境界に関わる構造物の礎石または根固めに当たるものと思われる。またトレンチの北側では、粗砂からなる盛砂をトレンチ中央にある水道管の攪乱坑内の土層で確認した。他地域の例から馬場関連の遺構である可能性が高い。

T-14では標高13.1mで表面が磨かれた花崗岩の板石４枚を検出した。うち東側の２枚は敷石状にならべており、この状況は調査区外の東にも続く可能性がある。近代に入ってからこの地区は第六聯隊の厩が存在したことから、厩に関わる遺構である可能性がある。またトレンチの南側では、トレンチ中央にある水道管の攪乱坑内の土層から標高12.8mと13.0mに近世の硬化面を確認した。

このように、愛知県体育館の東側の地区では近世の遺構面が良好な状態で残存していることが判明した。

調査位置図



T-13 西より

T-14 南西より

（5）本丸搦手馬出周辺石垣修復事業に係る発掘調査

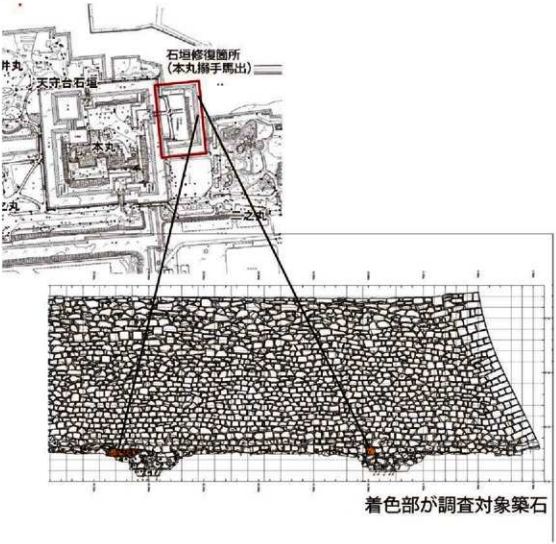
調査期間　令和３年（2021）３月９日～３月17日
調査地区　本丸地区
調査面積　約７㎡
調査目的　本丸搦手馬出周辺石垣修復事業に伴う調査
調査担当　西本茉由、木村有作
調査概要

平成30年度に行った調査の際に、解体した石垣の最下段より確認されたいわゆる逆石と呼ばれる、石材の上面が水平に積まれた築石が確認された。逆石が搦手馬出の孕み出しの原因となっている可能性があったことから、状況の確認と積み直しに際しての対策を検討するために逆石と逆石の下部の石材の積み方の確認を行った。トレンチは南北２箇所に設定し、北トレンチでは逆石と逆石の下の石材の背面を、南トレンチでは逆石の下の石材の背面を確認した。調査当初は北トレンチで逆石を撤去し、南トレンチでも逆石の下の石材を撤去してさらに下の石を確認する予定であったが、南トレンチでは背面の掘削によって十分な成果が得られたため石の吊り上げは行わなかった。

北トレンチでは栗石の除去と逆石の撤去を行った。結果として、逆石の下部の築石は上部が丸まっており、さらに前面が立ち上がるような変状をしていることが分かった。そのため、逆石と下部の築石の接点で、逆石が前面に滑り出すような形になっていることを確認した。

南トレンチでは栗石の除去を行った結果、築石の石尻があがったため前面が立ち上がり、上部の石材が逆石状に変状したことが確認できた。築石下部には介石が丁寧に配置されており、慶長期の石積みの特徴を確認することができた。

調査位置図



調査写真

南側トレンチ石屍状況

北側トレンチ逆石の下部築石状況

（6）西之丸き損地点の発掘調査・修復

調査期間　発掘調査：令和２年（2020）７月28日～令和３年（2021）１月21日
　　遺構修復：令和３年（2020）１月６日～１月21日

調査地区　西之丸地区

調査面積　発掘調査：82㎡
　　遺構修復：40㎡

調査目的　遺構のき損状況等を把握するための検証発掘調査、及び検証結果に基づく遺構の修復。

調査担当　酒井将史・瀬崎健・二橋慶太郎

調査概要

令和元年度に西之丸にて展示収蔵施設（西の丸御蔵城宝館）の外構整備中に、地中に残存していた米蔵（六番御蔵）の基礎の石列（礎石・地覆石、68石）を原位置から移動させ、遺構をき損する事故が発生した。また、本工事中には学芸員が立会うことなく施工された箇所が複数あることも判明した。

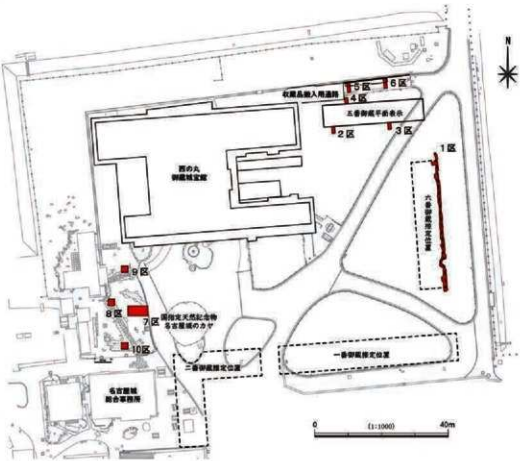
こうした事態を受けて、特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議の下にき損地点等調査修復検討会を組織し、検討会の有識者の指導を受けながら、き損箇所等の調査・修復を実施した。

発掘調査は、①六番御蔵の石列のき損状況を把握し、移動した石材の痕跡を把握するための調査（１区）、②五番御蔵の遺構平面表示の基礎設置、展示収蔵品の搬入通路部分の掘削、西之丸西部の景石撤去時の地表面のすき取りの各工事によって、近世包含層が削られていないかを検証するための調査（２～10区）からなる。

①では、調査区内の攪乱土を取り除き、抜き取り痕跡等の検出に努めた。検出した抜き取り痕跡と移動した石材底面の形状を比較するとともに、過去の調査で検出した石材の写真との照合や、隣接する石材どうしのかみ合わせの検討も行い、移動した石材の原位置を特定・推定した。つづいて、石材の高さや角度を調整しながら石材を原位置と推定される箇所に戻し、遺構を復旧した。

②については、すべての調査区で工事に伴う掘削は現代又は近代の土層の範囲内であり、近世面には達していないことを確認した。

調査位置図



調査写真

調査風景

石列の修復状況

2．石垣カルテの作成

調査期間　　令和３年（2021）３月３日～３月 17 日
石垣カルテ作成面積　9,771㎡（全 17 面）
オルソ画像作成面積　733㎡（全 21 面）
調査担当　　二橋慶太郎、木村有作
調査概要

令和元年度に引き続き、石垣カルテおよびオルソ画像の作成を行った。

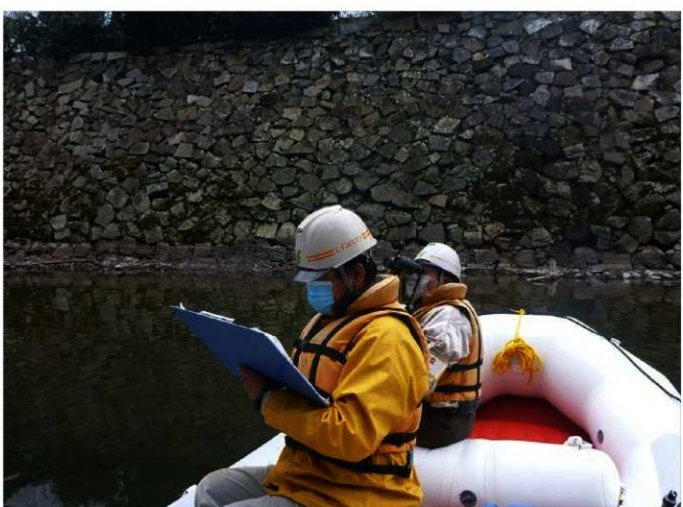
石垣カルテは、本丸内堀、外堀 (水堀を含む) を対象とし、石垣に近接して肉眼で破損状況、刻印等の確認を行った。水堀部分についてはボートにより接近して観察を行った。

観察の結果、直ちに崩落の恐れがある石垣は見られなかったものの、内堀南側で築石が孕む石垣が複数確認された。水堀は本年度が初めての調査となるが、今回の調査箇所では、全体として孕みや角石の欠けが確認されたほか、266W 石垣の堀底部では抜け落ちたと思われる間詰石や栗石が多数確認された。これらの石垣は、観覧者の導線に近いことから、今後も状況を注視していく。

その他、外堀の 126H、水堀の 222O、266W の各石垣では、同一石垣内で刻印、石質、石材の形状が切り替わる箇所が確認された。いわゆる「丁場境」の可能性があり、公儀普請との関わりも踏まえ、検討を行う必要がある。

オルソ画像は、城内の雁木を中心に作成した。本年度で、有料区域内の画像作成はほぼ完了し、今後は、三之丸、水堀へ移行する。

調査写真



水堀調査の様子

3. 工事立ち合い

（1）二之丸庭園修復整備工事に伴う立ち合い

工事期間　令和２年（2020）12 月 12 日～令和３年（2021）３月 26 日
工事地区　二之丸（北）地区　二之丸庭園北御庭・前庭
事業面積　―
工事原因　名勝名古屋城二之丸庭園修復整備工事に伴う確認調査
立会担当　高橋圭也、佐藤公保、岡本敦子
立会結果

二之丸庭園では平成 24 年度（2012）から修復整備工事を実施している。令和２年度（2020）は飛び石及び石段の据え直しと樹木の伐採を行った（図）。

・景石（図１①～②）

景石①、②ともに樹木の根によって原位置から動かされていた景石を持ち上げて根の一部を除去した。景石①は影響を及ぼしていた根をすべて除去することができなかったため、景石を原位置に据え直すことはできなかった。景石を原位置より移動させ、園路脇に置いた。景石②は影響を及ぼしていた根をすべて除去し、原位置に復旧した。

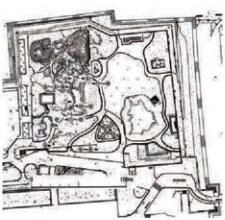
・石段（図１③～⑤）

石段③～④が樹木の根や築山の土砂流出等の影響により動かされていたため、樹木の根等を撤去して原位置に復旧した。石段⑤は土砂に押し出されて倒されていたため、流入した土砂を除去して原位置に復旧した。

・樹木（図１⑤～⑲）

樹木⑬・⑯は石段等に悪影響を及ぼしているため除去した。その他の樹木は本来の景観にそぐわないことや日差しを遮っていることから伐採した。いずれも地際より伐採し、地面に対する影響は軽微であった。

工事位置図



工事写真

樹木伐採作業

（2）余芳仮設作業小屋の設置に伴う立会

工事期間　令和２年（2020）１月 19 日～３月 22 日
工事地区　二之丸庭園
事業面積　―
工事原因　余芳移築復元
立会担当　村木誠，高橋圭也，岡本敦子
立会結果

本立会は余芳移築復元に際し、解体された余芳の部材を仮組及び検討するための仮設作業小屋の設置に伴う立会である。

権現山東側をシートで養生した上で砕石を敷き均し、土台とした。土台の流出を防ぐため、一部で網籠を使用した護岸を施工した。土台の上にコンクリートを流し込み、その上に仮設作業小屋を設置した。立会は名古屋城調査研究センター学芸員が常時行い、作業工程上の節目には文化財保護室も立会を行った。

余芳仮設作業小屋設置にあたっては土地の形状変更は行わなかった。なお、仮設作業小屋は令和６年（2024）に解体し原状に復旧する予定である。

工事写真

土台造成完了時

仮設作業小屋設置完了時

（3）西之丸展示収蔵施設外構工事に伴う立会

工事期間　令和３年（2021）１月 25 日～３月 29 日
工事地区　西之丸
事業面積　約 1600㎡
工事原因　展示施設外構工事
立会担当　酒井将史・濵崎健
立会結果

令和２年（2020）３月に発生したき損事故によって外構工事が中止されていたが、き損した遺構の修復作業が終了した後、展示収蔵施設の施設能力を発揮させることを目的として工事が再開された。主な工事内容は路盤舗装・縁石の設置・既存インフラの嵩上げ・ルーバーフェンスの設置・既存物撤去・切株除根である。名古屋城総合事務所が定めたき損事故再発防止策に従い、全ての工程において名古屋城調査研究センター学芸員が立ち会った。また定期的に文化財保護室の学芸員が立会い、施工内容の確認や工事計画の協議を適宜実施した。

工事写真

展示収蔵施設付近施工完了風景

搬出入口付近施工完了風景

（4）東門便所改修工事に伴う立会

工事期間　令和２年（2020）11 月 4 日～令和３年（2021）３月 18 日
工事地区　二之丸地区
事業面積　29㎡（掘削面積は 7.6㎡うち新規の掘削面積は 1.3㎡）
工事原因　便所改修工事
立会担当　佐藤公保、高橋圭也、二橋慶太郎、花木ゆき乃、村木誠
立会結果

11 月 4 日より東門便所周辺に仮囲いを設置するなど、工事実施のための準備工事を行った。9 日から外装の取り外し、土間のコンクリートの除去作業を開始した。掘削深度は、地表面から 0.3m 下に留まり、掘削土の状況から表土層に留まっていると思われた。掘削土中からは少量の瓦片が出土した。掘削作業は 11 月 26 日には終了し、以降は内装、外装、配電工事が実施され、令和３年３月 18 日に名古屋市教育委員会担当の立会の下、完了検査を行い工事は終了した。

工事写真

掘削作業

工事完了

４．文献調査

令和２年度も令和元年度に引き続き、名古屋城築城期に関する史料調査や保存整備事業が進められている二之丸庭園についての史料調査を主要な課題として設定し、調査を進めた。令和２年度に関しては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、緊急事態宣言発出中に他機関での文献調査を自粛したこともあり、調査の進展に大きな影響が生じた。

４月から６月中旬については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、他機関に出向いての史料調査を実施せず、二之丸庭園に関する調査対象史料として令和元年度に複写収集した「尾州御留守日記」（徳川林政史研究所所蔵）の内容検討を進めた。

６月下旬以降は、二之丸庭園及び名古屋城二之丸地区に関する資料を所蔵する、名古屋市蓬左文庫・徳川美術館・徳川林政史研究所・博物館明治村に出張して史料調査をおこなった。

また、令和３年度に開催を予定しているシンポジウム「史料が語る名古屋城石垣普請の現場」準備のため、共催者である熊本大学永青文庫研究センターや東京大学史料編纂所とともに、名古屋城築城期の石切丁場である小牧山・岩崎山（愛知県小牧市）の実地調査及び名古屋城が所蔵する築城期関連資料の文献調査をおこなった。

その他、名古屋城に関係する絵図類等について、徳川美術館・瀬戸市文化センター等の他機関が所蔵する資料も含め、調査及び記録写真の撮影をおこなった。

令和３年度については、新たな収蔵展示施設である名古屋城西の丸御蔵城宝館が開館予定であることや、先述したシンポジウムの開催を予定している関係から、展観事業に関連した調査が課題となることが想定される。新型コロナウイルスの感染拡大状況にもよるが、通年通り文献資料の継続的な調査を実施していく予定である。

石垣普請シンポジウム準備調査の様子（令和２年１１月１３日）

史料調査一覧

年月日	場所	調査者	目的
令和２年（2020） ４月 10 日（金）	名古屋市住宅都市局 営繕部企画保全課 （名古屋市役所）	栗本規子 原史彦 木村慎平	名古屋城再建天守閣に関する設計図面の調査 名古屋市役所本庁舎に関する設計図面の調査
令和２年（2020） ６月 25 日（木）	名古屋市蓬左文庫	木村慎平	二之丸庭園関連史料の調査 「青窓紀聞」の名古屋城関連記事の調査
令和２年（2020） ７月 23 日（木）	名古屋市博物館	栗本規子 木村慎平	「築城図屏風」の調査および撮影
令和２年（2020） ７月 29 日（水）	徳川美術館	栗本規子 木村慎平	二之丸庭園関連史料の調査
令和２年（2020） ７月 29 日（水）	名古屋市蓬左文庫	木村慎平	「東御屋敷」関連史料の調査
令和２年（2020） ９月 15 日（火）～ ９月 16 日（水）	徳川林政史研究所	木村慎平 堀内亮介 種田祐司	「尾州御留守日記」の調査 二之丸庭園関係資料の調査
令和２年（2020） ９月 18 日（金）	名古屋市蓬左文庫	木村慎平	二之丸庭園関係資料の調査
令和２年（2020） 10 月 13 日（火）	名古屋市蓬左文庫	木村慎平	二之丸庭園関係資料の調査および撮影
令和２年（2020） 10 月 27 日（火）	博物館明治村	栗本規子 木村慎平 髙橋圭也 佐藤公保	第六連隊兵舎（近代名古屋城二之丸建造物）および関係史料の調査

令和２年（2020） 10 月 28 日（水）	平等院浄土院	朝日美砂子 木村慎平 種田祐司	名古屋城関係絵図等の調査
令和２年（2020） 10 月 30 日（金）	岩崎山・小牧山	栗本規子 原史彦 木村有作 木村慎平	石垣普請シンポジウム準備のための関連調査 名古屋城石垣の関連史跡を実地調査
令和２年（2020） 11 月 12 日（木）	岩崎山・小牧山	服部英雄 栗本規子 原史彦 木村有作 木村慎平 堀内亮介	石垣普請シンポジウム準備のための関連調査 名古屋城石垣の関連史跡を実地調査
令和２年（2020） 11 月 13 日（金）	名古屋城内	服部英雄 栗本規子 木村慎平 堀内亮介	石垣普請シンポジウム準備のための関連調査 名古屋城所蔵の普請丁場割図、古文書等を調査
令和２年（2020） 12 月 15 日（火）	名古屋市蓬左文庫	服部英雄 木村慎平 堀内亮介	「金城温古録」の調査 二之丸庭園絵図等の調査
令和３年（2021） 1 月 13 日（水）	徳川美術館	服部英雄 木村慎平 堀内亮介	「御城郭之図」の調査
令和３年（2021） 1 月 20 日（水）	瀬戸市文化センター	木村慎平 堀内亮介 種田祐司	瀬戸市所蔵の名古屋城図および名古屋城下図の調査
令和３年（2021） 1 月 21 日（木）	名古屋市蓬左文庫	木村慎平	「尾張志」付図の調査
令和３年（2021） 1 月 28 日（木）	名古屋市蓬左文庫	木村慎平	明治初年の金鯱関係史料の調査
令和３年（2021） 2 月 22 日（月）	平等院浄土院	木村慎平	名古屋城関係絵図等の調査および撮影

複写収集資料一覧

資料名	資料番号	点数
多久市郷土資料館所蔵文書		
鍋島勝茂自筆書状	2161	1 点
鍋島勝茂書状	2187	1 点
鍋島勝茂自筆書状	2192	1 点
鍋島勝茂自筆書状	2197	1 点
鍋島勝茂自筆書状	2202	1 点
鍋島勝茂自筆書状	2213	1 点
鍋島勝茂自筆書状	2227	1 点
鍋島勝茂自筆書状	2240	1 点
鍋島勝茂自筆書状	2242	1 点
鍋島勝茂自筆書状	2246	1 点
鍋島勝茂自筆書状	2371	1 点
鍋島勝茂自筆書状	2372	1 点
鍋島勝茂自筆書状	2378	1 点
平等院浄土院所蔵資料		
五十騎一隊陣屋之図	—	1 点
〔書付〕	—	1 点
〔名古屋城三之丸大砲並びに砲手配置図〕	—	1 点
〔名古屋城内銃砲配置図〕	—	1 点
〔名古屋城内兵員配置図〕	—	1 点
〔松江城略図〕	—	1 点
〔出羽秋田藩中小野寺嘉門等につき書付〕	—	1 点
〔反射炉略図〕	—	1 点
〔石高別軍役比較表〕	—	1 点
〔ボウト六斤重加砲霞弾等略図〕	—	1 点
御下屋敷脇廣場おゐて御人数調御覧ニ而御鋪理向図面	—	1 点
諸筒目方口径比例包紙	—	1 点

5．デジタル化事業

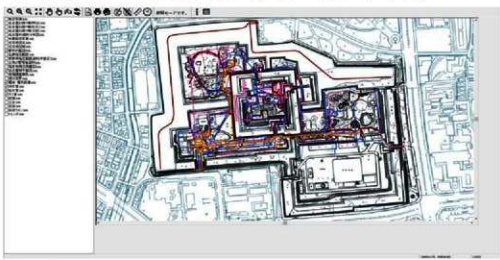
（1）名古屋城史跡等管理システム

概要

本年度は発掘調査の調査区設定等に活用するため、城内における埋設管の情報を下記の通り集成しシステムに登録した。今後は、名古屋城内で実施された現状変更、発掘調査等について、情報の更新を進めていく。

登録情報

①世界デザイン博覧会名古屋城会場ガス工事竣工図 [制作年不明：全 2 枚]
②世界デザイン博覧会名古屋城会場給排水工事竣工図 [昭和 63 年 (1988)：全 3 枚]
③名古屋城給水管改修工事 S62.7[昭和 63 年 (1988)：全 1 枚]
④名古屋城埋設管布設その他電気工事 [昭和 63 年 (1988)：全 4 枚]
⑤名古屋城深井丸等整備衛星工事 [平成元年 (1989)：全 5 枚]
⑥中区名古屋城外堀 300 耗浄化用水管布設工事 [平成 11 年 (1999)：全 1 枚]



埋設管表示画面

（2）名古屋城関係資料データベース

概要

名古屋城調査研究センターでは昨年度より、名古屋城に関係する資料の高精細デジタル画像を検索・閲覧できる「名古屋城総合事務所城関係資料データベース」を導入した。

本年度は、データベースのさらなる充実を図るため、所蔵者のご許可を得て、江戸時代に実施された名古屋城天守修理関係資料の高精細デジタル画像を作成し、目録情報とともに、データベースに追加登録した。次年度以降も、継続的に画像データの作成及び登録作業を進めていく予定である。

データベース登録画像一覧

種類	提供	画像点数
古絵図	愛知県図書館	2 点
	徳川美術館	15 点
	徳川林政史研究所	10 点
	名古屋市博物館	12 点
	名古屋市蓬左文庫	1,702 点
	個人蔵	19 点
昭和実測図	名古屋城総合事務所	310 点
その他図面	名古屋城総合事務所	86 点
野帳	名古屋城総合事務所	277 点
拓本	名古屋城総合事務所	561 点
ガラス乾板写真	名古屋城総合事務所	737 点
重要文化財旧本丸御殿障壁画	名古屋城総合事務所	1,080 点
合計		4,811 点

※　下線は令和 2 年度（2020 ～ 2021）追加画像

※　複数画像を登録した資料があるため、画像点数は資料の点数とは異なる。

Ⅱ　資料管理

1　所蔵資料・受託資料の概要

（1）所蔵資料

①重要文化財　旧本丸御殿障壁画（331 点、附 16 点）、天井板絵（331 点、附 369 点）

計 1,047 点

慶長 20 年（1615）造営、寛永 11 年（1634）増築の本丸御殿内に描かれた障壁画群。本丸御殿は昭和 20 年（1945）の空襲により焼失したが、事前の疎開により襖絵、障子腰貼付絵、杉戸絵、天井板絵は焼失を免れた。なお、壁貼付絵は取り外しが困難なことから事前の疎開ができず、本丸御殿と共に焼失した。

障壁画は慶長造営期・寛永増築期を通じて、狩野派の絵師によって描かれた。慶長造営期は当時の狩野家当主であった狩野貞信をはじめ、狩野甚之丞などが担当、寛永増築期は江戸幕府の御用絵師である狩野探幽をはじめ、狩野杢之助などが担当した。

城郭御殿の障壁画が一括して保存されている事例は、京都市・二条城と名古屋城の 2 例のみであり、全国的に見ても極めて貴重な資料群である。

文化財指定の経緯

昭和 17 年	1942	6 月 26 日	障壁画 345 面（附 16 面）が国宝保存法に基づく国宝（旧国宝）に指定
昭和 25 年	1950	8 月 29 日	文化財保護法施行に伴い、旧国宝のうち障壁画 199 面（附 16 面）が重要文化財に指定（旧国宝指定分のうち障壁画 146 面は戦災により焼失）
昭和 30 年	1955	6 月 22 日	障壁画 132 面が重要文化財に追加指定
昭和 31 年	1956	6 月 28 日	天井板絵 331 面（附 369 面）が重要文化財に追加指定

②ガラス乾板写真　738 枚

昭和 15 ～ 16 年(1940 ～ 41)に、旧国宝に指定されていた建造物 24 棟および本丸御殿障壁画を中心に撮影された写真。一部、戦後に撮影された写真や他のガラス乾板写真を転写し写真などを含む。

③昭和実測図　307 枚

昭和 7 年（1932）に旧国宝に指定されていた建造物 24 棟の詳細な実測図。昭和 7 年実測調査開始、昭和 17 年完了、第二次世界大戦による中断を経て、昭和 27 年に清書完了。屋根瓦や飾金具の拓本も含まれる。

④その他の主要な所蔵資料

1．享元絵巻…尾張藩七代藩主・徳川宗春の治世下、享保 17 ～ 21 年（1732 ～ 36）ごろの名古屋城下本町通沿いの様子を描いた画巻。遊郭や芝居小屋の賑わいなど、当時の風俗を鮮やかに描く。

2．金城温古録…奥村得義・定によって編纂された名古屋城の詳細な記録集。明治 26 年（1893）に名古屋城の本丸・西之丸などが陸軍省から宮内省に移管され、名古屋離宮となるが、名古屋城本はその際に第三師団司令部所蔵本（現・靖國神社遊就館本）を転写し作成された。全 64 巻のうち、得義が尾張藩に献納した 31 巻分のみの写本となっている。

3．木子コレクション…故木子進發氏が収集した計 600 点以上に及ぶ刀剣・刀装具のコレクション。

4．戦災資料…焼損した天守閣・本丸御殿の金具、金鯱の鱗片、焼夷弾の弾頭など。

5．収集資料…武具、甲冑、名古屋城の図面類など、近世武家文化・名古屋城に関わるものが中心。

（2）受贈資料

・女乗物　1 件 1 点

江戸時代に高位の女性が移動のために乗った女乗物（駕籠）。

・刀剣・拵・兜　2件8点
室町から江戸時代にかけての刀剣・拵・兜。

（3）購入資料
・書状　「紀伊中納言（徳川頼宣）書状」1件1点
江戸時代初期の伏見城普請あるいは作事の小屋掛け場の選定について、徳川義直が、弟の徳川頼宣のために便宜を図ったことに対して、頼宣より義直に対して出された礼状。

（4）受贈・購入図書

（単位：冊）

	報告書	図録	紀要	年報	資料集	リーフレット	一般書籍等	合計
受贈	58	68	38	35	17	42	38	296
購入	–	–	–	–	–	–	54	54
合計	58	68	38	35	17	42	92	350

2　資料の修理

名古屋城旧本丸御殿障壁画保存修理事業（文化庁補助事業）

昭和61年（1986）よりの継続事業。障壁画331面については平成17年度（2005～06）に根本修理（解体修理）を完了した。平成27年度（2015～16）より根本修理完了画面について点検修理を実施しており、並行して天井板絵331面（附369面）の根本修理を実施している。今年度は下記の画面を修理した。

今年度修理画面

（1）点検修理

作品名	場所	形状		面数
風俗図（動使参詣・船下ろし）	対面所次之間西側	襖絵	紙本着色	4面
風俗図（吉田神社・田植・上賀茂神社）	対面所上段之間東側	襖絵	紙本着色	4面
風俗図（綱引・見世物）	対面所次之間東側	戸襖絵	紙本着色	4面
合計				12面

（2）根本修理

作品名	場所	形状		面数
小禽図	上洛殿一之間	天井板絵	紙本着色	1面
竹梅図	上洛殿一之間	天井板絵	紙本着色	1面
山水図	上洛殿一之間	天井板絵	紙本着色	2面
桐文図	上洛殿入側	天井板絵	紙本着色	17面
七宝唐草文図	上洛殿三之間	天井板絵	紙本着色	5面
合計				26面

3　資料の利用

（1）資料貸出

貸出期間	貸出先	貸出目的	貸出資料
令和２年（2020） ７月８日（水） ～12月25日（金）	石川県立美術館 久留米市美術館	「没後35年　鴨居　玲展 - 静止した刻 - 」	鴨居玲作「天守閣の燃えた日」
令和２年（2020） ９月15日（火） ～12月18日（金）	東京国立博物館	特別展「桃山－天下人の１００年」	重要文化財名古屋城本丸御殿障壁画 「雪中梅竹鳥図」
令和２年（2020） ９月29日（火） ～12月25日（金）	名古屋市秀吉清正記念館	特別陳列「－戦国を駆け抜けた武将－　兼松正吉」	【所蔵資料】 福島正則画像（模写） 織田信長画像（模写） 【寄託資料】 加藤清正画像

（2）写真貸出

72件135点（観光用写真を除く）

（3）熟覧

熟覧日	熟覧者	熟覧目的	熟覧資料
令和２年（2020） ６月19日（金） ８月28日（金） 10月７日（水） 12月９日（水） 令和３年（2021） １月27日（水） ２月23日（火）	名古屋城本丸御殿復元模写共同体	名古屋城本丸御殿模写作成の参考のため	重要文化財名古屋城旧本丸御殿障壁画・天井板絵（令和２年度制作分の原本を中心に）
令和２年（2020） ９月３日（木）	名古屋市秀吉清正記念館	展覧会出品予定資料の事前調査	福島正則画像（模写） 織田信長画像（模写）
令和２年（2020） 11月13日（金）	熊本大学永青文庫研究センター 東京大学史料編纂所	来年度シンポジウム開催にかかる事前調査	町場請取絵図 御城御石垣絵図 名古屋城石垣普請扶持米請取状
令和３年（2021） ２月４日（木）	ヤマザキマザック美術館	展覧会出品予定資料の事前調査	重要文化財名古屋城旧本丸御殿障壁画・天井板絵(出品予定資料３点)

Ⅲ　教育普及・展示事業

1　刊行物

（1）名古屋城調査研究センター研究紀要　第２号

概要

名古屋城調査研究センターにおける研究成果を公開するため、『名古屋城調査研究センター研究紀要』を刊行した（令和３年〔2021〕３月発行）。

目次

・服部英雄　　桶狭間合戦考
・原史彦　　「紀伊中納言（徳川頼宣）書状尾張中納言（徳川義直）宛」から読み解く徳川一門の公儀普請
・木村慎平　　「御小納戸日記」にみる名古屋城二之丸御庭の改造
・小西恒典　　聞天閣の誕生、焼失、保存
・木村有作　服部英雄　名古屋城本丸石垣考・内堀はなぜ空堀なのか
・髙橋圭也　　〈資料紹介〉名古屋城二之丸出土の「滴水瓦」について

（2）名古屋城調査研究センターだより　第２号

概要

名古屋城調査研究センターの活動を広く市民に周知するためのリーフレットとして、『名古屋城調査研究センターだより』を刊行した（令和３年〔2021〕３月発行）。

目次

・名古屋城調査研究センターは何を目指すのか？　　村木誠
・丁場割図にみる名古屋城石垣普請　　堀内亮介
・〈美術工芸史料担当より〉名古屋城本丸御伝障壁画を描いた絵師　　朝日美砂子

（3）名古屋城二之丸地区試掘調査報告書（第１次・第２次調査）［名古屋城調査研究報告書２］［埋蔵文化財調査報告書２］

概要

名古屋城二之丸の遺構残存状況確認のため平成30年度と令和元年度に実施した試掘調査の報告書を刊行した。（令和３年〔2021〕３月発行）

試掘調査によって名古屋城二之丸地区に断片的ではあるが近世の遺構、生活面が残存していることが判明した。あわせて近代、歩兵第六連隊関連の遺構も残存していることが判った。

2　レファレンス

名古屋城調査研究センターでは、市民からの質問のうち、特に名古屋城の文化財・歴史に係るものについて回答を行っている。令和２年度は合計で25件の問い合わせがあり、内訳としては、石垣をはじめとした名古屋城内の記念物に関する質問及び、名古屋城に関連した歴史資料（文献・古写真等）に関する質問が多かった。

内容	件数
記念物（特別史跡・名勝・天然記念物）に関すること（石垣、二之丸庭園など）	8件
建造物に関すること（天守・本丸御殿など）	3件
資料等の確認依頼	8件
尾張藩に関すること	2件
障壁画に関すること	1件
その他	3件
合計	25件

3　現地説明会

（1）本丸内堀発掘調査の成果公開及び現地説明会

公開日時　　令和３年３月２日（火）～３月 12 日（金）
現地説明会日時　令和３年３月７日（日）
参加人数　　約 100 名

３月１日にマスコミ公開を現地で行い、発掘調査の成果を公表した。翌２日から約 10 日間、堀底の調査地点を見下ろせる展望スペースに調査の概要パネルを設置し、説明資料を約 400 部配布した。３月７日の日曜には、午前・午後１時間ずつの調査担当学芸員による解説を、現地パネルを活用して実施した。

成果公開の様子（内堀北より）

4　講師派遣

年月日	題目	主催者	場所	講師
令和２年（2020） 11 月 5 日（木）	名古屋城天守の宝暦大修理について	愛知県公立図書館長協議会	天白区文化小劇場	堀内亮介
令和３年（2021） 1 月 22 日（金）	名古屋城天守・櫓・御殿	名古屋城総合事務所	名東文化小劇場	原史彦
令和３年（2021） 1 月 23 日（土）	名古屋城石垣石材の特徴について	名古屋城総合事務所	港文化小劇場	二橋慶太郎
令和３年（2021） 1 月 31 日（日）	名古屋城天守の宝暦大修理について	名古屋城総合事務所	西文化小劇場	堀内亮介

※当センター職員を職務の一環として派遣したもののみ掲載。

5　展示事業

刀剣展―尾張に伝わる刀剣―

概要

歴史的・美術史的にも貴重な刀剣を展示。

主催

日本美術刀剣保存協会名古屋支部、名古屋城総合事務所

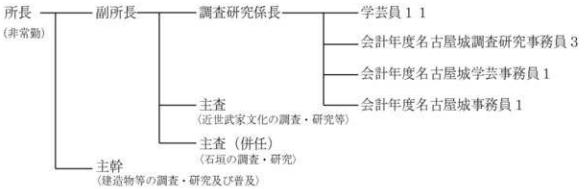
展示期間	展示場所	展示資料	点数	来場者数※
令和２年（2020） 9 月 12 日（土）～ 9 月 27 日（日）	復原本丸御殿内孔雀之間	1 刀　無銘　来國次 2 刀　無銘　長船光忠 3 刀　銘　備前長船住兼光 4 刀　銘　生駒雅楽頭公依御意兼明造之 ／文禄元歳二月吉日 ／谷出羽守二胴切 5 脇指　銘　陸奥守大道作 ／大繩監物義辰 6 脇指　銘　出羽大掾藤原國路 （徳善院貞宗写） 7 脇指　銘　相模守政常入道 8 太刀　銘　青木照之進元長彫之 ／文政十二己丑年春吉日	8 点	9,927 人

※来場者数は会期中における本丸御殿孔雀之間の入場者数。

Ⅳ組織と職員

［令和３年（2021）３月31日現在］

１．組織



２．職員

所　長（非常勤）	服部　英雄
副所長	村木　誠
主　幹 〈建造物等の調査・研究及び普及〉	栗本　規子　（～3.3.31）
主　査 〈近世武家文化の調査・研究等〉	原　史彦　（2. 4. 1～）
主　査（併任） 〈石垣の調査・研究〉	深谷　淳
調査研究係長	小池　伸一　（2. 4.1～3.3.31）
学芸員	朝日　美砂子（2. 4. 1～）
	酒井　将史　（2. 4. 1～）
	木村　慎平
	近藤　将人
	木村　有作
	西本　茉由
	花木　ゆき乃
	堀内　亮介
	二橋　慶太郎
	瀬崎　健　（2. 4. 1～）
	髙橋　圭也　（2. 4. 1～）
会計年度名古屋城調査研究事務員	佐藤　公保
	種田　裕司
	大西　健吾　（2. 8.1～）
会計年度名古屋城学芸事務員	鶴見　沙耶伽
会計年度名古屋城事務員	近藤　直樹　（3. 1. 1～）

Ⅴ　参考資料

1　名古屋城の活動

（1）催事等

会期	事項
令和２年（2020）２月 29 日（土）～４月９日（木）	本丸御殿入場休止※1
令和２年（2020）４月 10 日（金）～５月 31 日（日）	名古屋城開園休止※2
令和２年（2020）８月１日（土）～８月 16 日（日）	名古屋城夏のおもてなし
令和２年（2020）９月 12 日（土）～９月 27 日（日）	令和２年度 刀剣展 －尾張に伝わる刀剣－
令和２年（2020）10 月 24 日（土）～ 11 月 23 日（月・祝）	名古屋城秋まつり
令和２年（2020）10 月 25 日（日）～ 11 月 23 日（月・祝）	第 73 回 名古屋城菊花大会
令和２年（2020）10 月 31 日（土）～ 11 月３日（火・祝）	茶席特別公開
令和２年（2020）10 月 31 日（土）～ 11 月８日（日）	重要文化財「東南隅櫓」「西南隅櫓」特別公開
令和３年（2021）１月１日（金・祝）～１月 11 日（月・祝）	名古屋城冬まつり
令和３年（2021）１月２日（土）～１月 11 日（月・祝）	重要文化財「東南隅櫓」「西南隅櫓」特別公開
令和３年（2021）３月２日（火）～３月 12 日（金）	本丸内堀発掘調査 成果公開・現地説明会
令和３年（2021）３月６日（土）～３月 15 日（月）	第 47 回 名古屋城つばき展
令和３年（2021）３月 20 日（土・祝）～５月５日（水・祝）	名古屋城春まつり
令和３年（2021）３月 20 日（土・祝）～４月２日（金）	名古屋城金鯱展

※１新型コロナウイルス感染症拡大防止のため。同時期に予定していた名古屋城春まつりは開催中止。

※２同上。同時期に予定していた第 69 回名古屋城さつき大会は開催中止。

（2）特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議

年	月日	会議名称※
令和２年	６月 12 日	第 22 回　天守閣部会
(2020)	６月 18 日	第 35 回　石垣・埋蔵文化財部会
	６月 22 日	第 31 回　全体整備検討会議
	７月２日	第 36 回　石垣・埋蔵文化財部会
	７月 14 日	第 23 回　庭園部会
	８月３日	第 32 回　全体整備検討会議
	８月７日	第 25 回　建造物部会
	９月 11 日	第 37 回　石垣・埋蔵文化財部会
	９月 25 日	第 33 回　全体整備検討会議
	10 月 11 日	第 38 回　石垣・埋蔵文化財部会
	10 月 22 日	第 34 回　全体整備検討会議
	11 月 23 日	第 24 回　庭園部会
	12 月３日	第 35 回　全体整備検討会議
	12 月 17 日	第 39 回　石垣・埋蔵文化財部会

令和３年 (2021)	１月８日	第 36 回　全体整備検討会議
	１月 24 日	第 25 回　庭園部会
	２月９日	第 37 回　全体整備検討会議
	２月 12 日	第 40 回　石垣・埋蔵文化財部会
	２月 22 日	第 26 回　建造物部会
	３月 25 日	第 41 回　石垣・埋蔵文化財部会
	３月 25 日	第 23 回　天守閣部会
	３月 30 日	第 38 回　全体整備検討会議

※各部会の正式名称には部会名称の前に「特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議」が付されるが、煩雑になるため省略した。同様に全体整備検討会議についても「特別史跡名古屋城跡」を省略した。

２　入場者数の推移

（単位：人）

月	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度※1	令和２年度※2
4	237,232	274,267	282,561 (147,842)	10,775(0)
5	181,163	221,242	226,278 (134,526)	199(0)
6	150,820	142,269	139,213 (111,996)	21,208(13,732)
7	121,613	127,839	134,635 (108,517)	30,302(26,228)
8	215,947	221,923	222,148 (134,832)	25,423(23,228)
9	115,820	150,171	166,354 (116,789)	46,333(30,065)
10	128,019	196,819	189,577 (118,772)	55,784(44,090)
11	156,497	203,670	210,298 (131,809)	90,109(61,874)
12	99,676	141,475	129,109 (84,350)	31,957(29,173)
1	126,538	143,520	170,855 (101,728)	20,559(17,183)
2	117,659	146,417	120,341 (80,447)	25,942(16,597)
3	251,760	237,918	44,902 (0)	164,893(53,250)
計	1,902,744	2,207,530	2,036,271 (1,271,608)	523,484 (315,420)

※１(　)内は本丸御殿入場者数。令和２年２月 29 日から同年４月９日までの間、本丸御殿入場休止。

※２(　)内は本丸御殿入場者数。令和２年４月 10 日から同年５月 31 日までの間、名古屋城開園休止。
５月 29 日（金）のみ暫定的に開園再開。

名古屋城調査研究センター年報２
令和２年度
２０２１年１２月

発行　名古屋市観光文化交流局
名古屋城総合事務所
名古屋城調査研究センター
〒460-0031 名古屋市中区本丸１番１号
TEL（052）231-2481